



吉野の天然乾燥材と 自然素材にこだわる家づくり

創業から41年目になる輪和建設株式会社の中西直己代表取締役(63)は、家づくりの考え方を抜本的に見直す時期が十数年前にあつた。たどりついたのが吉野杉、吉野桧の天然乾燥材、漆喰(しっくい)・和紙などの自然素材を使った昔ながらの家づくり一。見直すきっかけは、自分が建てた家で妻が新建材による体調不良を起こす「シックハウス」の症状に苦しめられたことだった。

木に墨付けする大工の技術を信頼し、県内屈指の「手刻み加工」にこだわる中西さん。「手間がかかるけど、住まう人の安全と職人さんの技術継承のためにも続けていきたい」と語る。

Made
in
奈良

大和郡山市 輪和建設株式会社



本社に離接するモデルハウス

中西さんが会社に入ったのは、平成元（1989）年。すでに結婚し、別の仕事に就いていた中、創業者の義父の勧めだった。「福島県にある『四季工房』という会社に行き、空気の循環を使って、夏はできるだけ涼しくするやり方『パッシブソーラーハウス』の会社（グループ）に加盟させてもらうこと」になって」と話す。

平成17（2005）年にハウスメーカーの仕事を思い切って辞めた中西さん。「もともと純粋に、一から家をつくるというのが好きだったので、モデルハウスを見せていただき、「こんな家だったらしいな」と、心が引きつけられました。ただ、こんな住宅をいきなりつくれるかなという不安もありました。『モデルハ

そこで、約10年前に借金して古くなった事務所や倉庫を壊して、新事務所とモデルハウスをつくりて倉庫と作業場を新築。そこから天然乾燥させた山の木と天然の素材ばかり使って、大工技術でつくる「木造軸組み工法」の家づくりが始また。

ウスは持たなあかん。どん
な家をつくつているかは見
てもらわないと、いくら口
で説明してもダメや」と言
われて一念発起した。

桧。吉野郡川上村の山を元にしようというグループ「吉野かわかみ社中」に加盟し、木を屋外に置いて自然に乾燥させた天然乾燥材を使用している。「県外の三重・熊野や福島の木は主に化粧材に使用するだけ。構造材はすべて地元の木を使つて、昔ながらの技術で建てている工務店」というイメージじゃないでしょうか」とも。

独自でやりだしてからで
こ10年で100棟建築。現
在、年間の受注は新築とリ
フォームとも5、6軒ずつ。
中西さんは「日本で住む家
ですから、日本の木の方が
絶対に気候風土に合つてハ

取り、いろんなものを決めていっているのですが、玉井の高さ一つにしても私どもが『これが普通』と思っているのも、以外にもっと高く思ってはるかも知れないし。もっと低くてもいいと思つてはるかも知れないし。いろんなものを見てからうんですよ」と丁寧な心配りを強調する。

中西さん。次男・祥人（じょうじん）さん（32）が、3年前から営業担当として一緒に仕事をしてくれていることが、何よりも頼もしい。

中西さんは「わたし自らは、日本の伝統技術が好きで、できるだけそれに近い家づくりを続けていきたいと思います。若い世代になれば、考え方も変わってくるでしょうから、それに固執させるのも良くないかな」と思いつつ、できたら伝統的なところ、天然乾燥の材料を使っているところや大工さんの技術はそのまま守ってほしいですね。その上さらにデザインや性能を乗せて、時代の変化に

多湿で雨が多いに合った形の材でつくることにより、木の香りや色つやに独特の風合いが放たれる「次世代へ受け継ぐ長い寿命の住まいをつくりたい」という願いに共感してくれる人が多いことを実感している

ます。なんでもござ用はないのでしょうか。少しずつでも自給率が加速するよう改善していけばいいのです

その上で、「家づくりで気遣うところは、どこまでお客様の意向をくみ取れているのかということ。打ち合わせをして、プラン、聞

どうしても市街地で家が建
て込んでいると、煙突から
の煙を気にする人がいます
ので。やっぱり見て興味を
もっていただき、『これ欲
しい』となることが多いで
す」と笑う。

輸和建設株式会社
○創業＝昭和55(1980)年7月1日
○代表取締役＝中西直己
○従業員＝10人(パート2人含む)

ついでいけるようにして、
れたら一番良いかなとは思
います」と、将来に期待を
膨らませた。

輪和建設株式会社

- 創業＝昭和55(1980)年7月1日
- 代表取締役＝中西直己
- 従業員＝10人(パート2人含む)
- 資本金＝1000万円
- 事業内容＝住宅建築、リフォームの設計、施工、管理
- 住所＝大和郡市山満願寺町814-6
- 電話番号＝0743(53)3355
- ファクス＝0743(53)9270



<https://www.rinwa.in/>